

平成22年度

奨励賞

平成22年度障害者雇用職場改善好事例

サービス業

頑張る従業員の雇用継続上の課題を補助具製作等で解決

JFEアップル西日本株式会社(広島県福山市)

取り組みの紹介一覧

1. マウス操作時の痛みを軽減するため、トラックボール型マウスを導入
2. 介助なしで車いすを車内に積み込むための木製スロープを製作
3. 腱鞘炎改善のための木製リストレストを製作

事業主の声

取締役総務部長 叶木 清実 さん

製鉄業の特例子会社として1992年に発足した当社は、全従業員93名でそのうち障害者64名の体制で頑張っております。採用に当たっては、コミュニケーション能力と職務遂行能力を最大の合否基準としており、職場配置にあたっては施設・設備の配慮も重視してまいりました。

しかしながら、採用後の障害の進行や新たな障害の発症等、職場定着に向けた事象の発生も少なからずあり、課題克服のため職場の知恵を実践してきました。このように、従業員と管理者が一緒になって1つのテーマに取り組むことで、連帯感、信頼関係が生まれることを何よりも財産と考え、どんな小さなことでも力を合わせて取り組みを重ねていくという社風が根付いているのではと感じています。

第1業務課 主任 藤井 宣美 さん

私は管理職と現場従業員の中間の役割のため、頻繁に従業員とコミュニケーションを取っています。そこで現場の従業員から出される要望、改善の提案等については、従業員自身が社外の人にも伝えることができるレベルの文書にまとめた上で、社内ですべて発表される「改善提案」において発表するように伝えています。そして私自身としては、出された要望等に対しては、作業上必要な要望等は全て対応したいと考えています。なぜなら、それらを本人の努力の範囲内で対応することとして片付けてしまうと、それ以上の向上を期待しないことになるからです。一人ひとりには、「自分でできた」という自信を持ってもらいたいです。



事業所の概要

JFEスチール株式会社の特例子会社として平成4年4月に設立された。パソコンでのデータ入力を柱にメールサービス、名刺印刷、計量器検査等多様なサービスを業務として行っている。平成16年からは岡山県倉敷市に倉敷事業所を設立した。

上肢障害者雇用の経緯

障害者雇用にあたっては、採用する人の職業能力を最重要に考えているため、障害部位で採否を判断する活動は行っていない。

主な事業内容

パソコンデータ入力、文書入力、計量器検査、プリントサービス、名刺・挨拶状印刷、メールサービス、書類頒布、鋼片硬度・粗さ測定等

上肢障害者雇用状況

■ 従業員数 89名
上肢障害者雇用数…………… 8名

機器
導入

ポイント

画像等
処理

作業内容

改善策

1

マウス操作時の痛みを軽減するため、
トラックボール型マウスを導入

課題点

頸椎損傷により受障した永井文康さんは、上肢は手指が屈曲した状態で、キーボード操作時には、親指を主に使い、人差し指はかるうじて使えるという状態であったが、得意なパソコンで写真や図形の処理を行う業務を担当していた。数年が経過した頃からマウス操作をする際に、手首に激痛が走るようになりだした。それでも激痛に堪えながら継続して作業していたが、次第に作業能率が低下し、疲労も蓄積し、1日6時間の勤務もままならなくなり、時折休暇を取るようになってきた。



改善内容

手指への負担軽減、作業能率の向上のため、**親指のみでマウスのクリック・ボタン操作ができる市販のトラックボール型マウス**を導入した。



4つのボタンに予め頻繁に使うコマンドを登録しておくことで、効率化を図っている



親指でトラックボール型マウス、キーボードを操作する永井さん



改善の効果

トラックボール型マウスの導入後、作業性は格段に向上し、痛みや疲労が改善された。その後に同様の障害のある従業員を雇用した際には同様のマウスを導入し、その従業員の職場定着を図っている。永井さんに導入した頃とは異なり、数種類のトラックボール型マウスが一般市場に出回るようになったため、現在は苦勞することなく導入できるようになっている。

従業員の声

永井 文康さん

トラックボール型マウスが導入されるまでは、痛みを我慢して作業していましたが、導入により随分と楽に操作できるようになりました。時折、他のデスク上のパソコンで通常のマウスを使うことがありますが、作業能率や使用後の疲労が全く違うことを実感できます。



最優秀賞

優秀賞

奨励賞

支援ツール

応募状況

応募要項

入賞事業所一覧

支援制度

補助具
製作

ポイント

作業内容

改善策

2

介助なしで車いすを車内に 積み込むための木製スロープを製作



課題点

谷本 志志さんは全身の筋肉が未発達のため、腕力や握力が弱く(左右の握力が各4kg)、通勤の際に家を出発するときの自家用車への車いすの積み込みは家族が、また職場で自家用車から車いすを降ろすときは従業員がそれぞれ介助していた。谷本さんは、面接時に「自力で通勤して働きたい」と話しており、周囲の介助をいつまでも受けるわけにはいかなかったことから、自家用車の荷室に滑車を付け、車いすをつり上げてバックドアから積み込む方法を試みた。しかし、車いすの積み込み後に車内に乗り込むことは、身体的な負担が伴う等不都合が多く、別の方法を検討せざるを得なかった。



改善内容

車いすをスロープに乗せて積み込む方法を取ることにした。製作するスロープの材質については、強度と軽さの両方の要件を満たし、なおかつ加工が容易なものである必要があったことから木製とした。スロープは持ちやすいこと、車いすを車内に引き込みやすくなる角度になることについて留意しながら、幾度も試行錯誤しながら製作した。

「工夫のポイント」として、大きさ、軽さ、強度の3点。まっすぐ積み込めるようスロープの両端にガイド枠を取り付け、握力が弱くても持ちやすいよう取っ手部分をくり抜き、強度と軽さが両立するよう、板の材質を変更する等細かな工夫がなされている。



手指全体で握りやすいよう、スロープをくり抜いてある



両端のガイド枠

上肢の筋力を考慮し、助手席に固定できるように留め金具がつくられている



改善の効果

握力が4kg程度であっても、谷本さんは自力で8kgある車いすを積み込み、自力で通勤できるようになり、本人の強い願いを実現させることができた。

なお、同社では屋根付き駐車場を相当数準備していたものの、谷本さんを雇用した時には、空きがない状態であった。自力通勤する谷本さんの様子を見ていた従業員から、車の置き方を工夫し駐車スペースを確保してあげたいとの提案があった。谷本さんの面接に対応し、スロープを製作した第一業務課の境課長は、この提案を聞いたときに、従業員同士の連帯感が強く根付いていることを実感した。

従業員の声

谷本 志志さん

木製スロープを使用するようになってからは、働くことにも自信が持てるようになり、外出することへの躊躇がなくなりました。気軽に買い物に行ったり、地元音楽サークルに参加する等、生活の幅が広がりました。そのため、これまで以上に仕事に打ち込めるようになりました。



補助具
製作

ポイント

文書
入力

作業内容

改善策

3

腱鞘炎改善のための 木製リストレストを製作



課題点

パソコンを使用し、文書入力作業に従事している藤井雪一さんは、両上肢関節拘縮のため、キーボードやマウスの操作時にはどうしても上肢が不自然な姿勢になるため作業能率が低下し、疲労しやすい状況にあった。頑張り屋の藤井さんは、我慢強く勤務が続けたが、ついに1年経過後、両手首の腱鞘炎を訴えるようになった。藤井さんが無理のない角度で操作ができないか検討し、市販のリストレストを導入した。

しかし、市販のリストレストは低反発クッションの柔らかい素材でできているため、上腕をリストレストに乗せると沈み込んだり、キーボード入力時に上腕を横にスライドさせると摩擦が生じるためにかえって操作性が低下した。



改善内容

リストレストに乗せた上腕が沈み込まず、横にスライドさせることが容易にできるよう、**一定の固さがある木製のリストレストを製作した**。製作にあたっては、長さや幅、高さ、傾斜角度、表面の滑らかさ等何度も試行錯誤を重ねた。完成したリストレストは、作業台にネジ固定して使用している。



マウスを置く部分をカット
縦横の長さは可動域を考慮している



この傾斜角度がポイント。乗せている上腕の痛み、スライドしやすさなどを確認しながら調整した



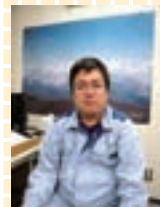
改善の効果

木製のリストレストを使用してからは、腱鞘炎は治癒し、その後藤井さんが痛みを訴えることはなくなった。作業能率に関しても、入力スピードが格段に向上し、360文字/10分間だったものが、600文字/10分間に増加した。その成果として、平成22年度の全国障害者技能競技大会(アビリンピック)においては、データ入力競技の広島県代表として出場するまでになっている。

従業員の声

藤井 雪一さん

木製のリストレストを使用するまでは、両手首、肘に痛みがあっても仕事だからと我慢して作業していました。あまりにも痛みがひどくなったので、上司に相談したところ、素晴らしいリストレストができました。痛みはもちろんなくなりましたが、入力スピードが随分と速くなったことが喜びです。検定試験やアビリンピック等にも自信を持って取り組みます。



最優秀賞

優秀賞

奨励賞

支援ツール

応募状況

応募要項

入賞事業所一覧

支援制度